

「震災と税金」

静岡市立安倍川中学校 1年 大橋 美月

私たちの住んでいる国は世界の中でも地震が多いといわれています。そこで、国はどのようにして国民の安全を守っているか不思議に思い、税金も含めて調べてみようと思いました。

まず、税金について調べました。税は消費税や所得税の他に法人税や酒税など全四十六種類もあることを知りました。税の使い道については、「公教育の教科書などの提供」「将来に役立つような新しい研究や開発」「公共施設の建設」「ゴミの処理」「警察・消防・救急の運営」「道路・橋・公園などの建設」「災害復興の費用」「年金などの社会保障」「医りょう費」「文化を振興すること」「国会や地方議会の運営」などと、国民が快適に生活を送ることができるように税金が使われていることが分かりました。

次に、過去にあった地震について調べました。住宅、住宅以外の建築物、道路、港湾など、電気・ガス・上下水道などを合わせた被害では、一九二三年の関東大震災で約四十六億円。一九九五年の阪神・淡路大震災で約十億円。二〇一一年の東日本大震災で約十七兆円。今年の一月初日の能登半島地震で約二百四十二億円も被害が出ていて、たった一回の震災でも被害額が億単位いくことが分かりました。その被害は被災地で補えるわけがなく、日本全体で補わなければいけません。そこで助けになるものが「税金」です。主に「災害時の緊急情報」「町の防災無線」「警察・消防・自衛隊の活動」この全てに税金が使われており、災害から身を守ったり・被害を食い止めたり・復興作業のために使われていることを知りました。特に「警察・消防・自衛隊の活動」では多くの人の命が救われました。

次に、もし日本に税金がなかったらどうなるかを調べた内容から考えてみました。普段の生活では、警察・病院・学校・消防署を出動させることには自分で全額払わなければいけなくなり、新しい道路や信号もつくれなくなり、犯罪や事故が増え、病院で治りょうをうけられない人も増え、少子高齢化が進み、日本は「不景気」になってしまうことが考えられました。

これらのことから、税金は日常生活をする上で快適に過ごすために必要なものだと分かりました。まだ消費税ぐらいしか納められませんが、大人になってから国民の義務をしっかりと果たせるようにしていきたいです。